



編集後記 腕組みをやめたボス



阪神タイガースのファンの皆さん、優勝おめでとうございます！

かくいう僕はセ・リーグでは広島カープのファン。今年の夏には往年

の名選手・北別府学さんのユニフォームを着て、マツダスタジアムでカープの応援をしてきました。^^

多くの評論家が予想したのと同様に僕自身も最下位と予想した広島カープが頑張っていたからです。

昨年0.5ゲーム差でなんとか最下位を免れたものの、そこからの戦力の上積みはほとんどなし。WBCに出場する

ような選手もいないし、シーズン前の春のオープン戦では16試合中勝ったのは4試合だけで12球団中最下位。>_<

そこに、コーチ等の指導者経験もなく就任したのが新井監督でしたので、大方の最下位予想もしようがありません。

ところが、シーズンが始まると新監督が今までのどの監督ともまるで違うことに驚かされました。

ベンチの中の監督がとにかく明るいのです。σ(^_^;)

選手がホームランやタイムリーを打ったり、投手がピンチをしのいだりすると、人目を憚らず感情もあらわに絶叫

してハイタッチ。サヨナラ勝ちの時は、誰よりも早くグラウンドに飛び出して顔を真っ赤にして一番の大はしゃぎ。

威圧感があるのよネ

なにより、エラーで負けることがあっても選手を責めることは決してありませんでした。



「とにかく選手を守る、とにかく前向きな発言をする」という強い姿勢をシーズンを通して貫いたのです。

その新井監督ですが、就任前から「ベンチでは絶対に腕組みをしない」と決めていたそうです。

上役の腕組み姿は、意図せずとも不機嫌な印象を回りに与え、近寄りたがたい雰囲気をつくります。

不機嫌になるのも不機嫌にするのも罪なことさ

かのドイツの詩人ゲーテの言葉に、『人間の最大の罪は不機嫌である。』とあります。



新井監督は、上に立つ者の態度次第で、選手が委縮することも一丸となって力を発揮することも知っていました。

結果、戦力では最弱とされた広島カープが、阪神に次ぐ2位でシーズンを終えることができたのです。

優勝せずとも、こんなに胸熱になったシーズンはありません。



阪神とは差があったけどネ

アメリカで1924年から1932年に生産性向上の要因を調査する実験が実施されました。

いわゆる「ホーソン実験」です。その実験の結果実証されたのは、労働環境や労働条件より

「人間関係」が生産性向上に影響を与えるということでした。

人間関係や心理的安全性に欠かせないのがコミュニケーション。

さらに突き詰めて言ってしまうと、常日頃相手の機嫌を取るということが大切ではないかと思えます。



だから笑顔の挨拶は大切なんですネ

社交辞令もネ

新井監督が腕組みする態度を戒めようとしたのは、周りに不機嫌を伝染させることを嫌ったからだと思えます。

「人のご機嫌を取る」というと人の顔色ばかりをうかがう悪い意味にとらえられることもあります。

しかし、職場でも家庭でもチームにおいて人間関係がうまくいってないときというのは、得てして相手の

機嫌をとることを怠っているときです。(>_<)

ご機嫌を取るというのは、顔色を伺うことではありません。相手を尊重し前を向いてもらうことなのです。

世間でいうところの「褒めて育てる」と通じるものがあるように感じます。

不機嫌で仕事をしていたら回りの雰囲気を悪くするだけでなく、仕事の効率も悪くなるし、ミスだって起こりがち。

日頃から自然なご機嫌取り（笑）で人間関係を構築していれば、ハラスメントも減るのではないかと思います。



柿野クンのギャグは、おやレベルだね

てへ 小学校の先生

個人的なことで恐縮ですが、息子夫婦に子どもが生まれました。

赤ちゃん言葉で「〇〇でちゅよ～」なんて言っている息子を僕ははじめて目にして驚きました。(^_-^)

それは少し引いて見ると結構情けない姿で、以前の彼からは想像もつかなかったからです。

なるほど、一生懸命に相手のご機嫌をとろうと思ったら自然と体裁とか気にならないものなんですね。

「機嫌をとる」というのは、社会で生きていく人にとって必要な修行のようなものかもしれません。

息子夫婦にとって、新しい、そして長い修行が始まったようです。

そう、今シーズンの新井監督のように、明るく前向きにがんばるのだよ。(^o^)



いないいないばあ

ありがたいけどツワイのよ

親戚のガングロお姉ちゃん